

評論 2004年の北海道経済

9月●「ほくほくFG」スタート～北海道銀行と北陸銀行の経営統合 岩堀 洋士

2004年9月1日付『北海道新聞』夕刊は、1面トップで「地銀2位 ほくほくFG発足」「初の飛び地統合」の大見出しの下、北海道銀行と北陸銀行が経営統合、持株会社である「ほくほくフィナンシャルグループ」が設立されたことを伝えた。預金量が8兆1,000億円で横浜銀行に次ぐ地銀第2位の銀行グループの誕生という「規模」面と、主たる営業基盤が遠く離れた地銀同士の経営統合であることに焦点を当て、「旧北海道拓殖銀行の破たん以来、激動・再編の波に洗われた道内金融業界は、ほくほくFGと札幌北洋ホールディングスとの『二強時代』に入っ

た」との評価が与えられている。

両行の経営統合は既に2003年5月23日に発表されており、統合に向けた準備作業並びに具体的措置もこの間に執られてきたことを考慮すれば(表-1)、見出しほどの話題性があるかは疑問ではある。しかし、現実スタートしたことで、発表時に構想された事柄、懸念された事柄が良きにつけ悪きにつけ試される時期に入ったわけで、むしろこれからが正念場を迎えると言うべきであろう。日本経済も漸く景気回復の兆しが見え、また長年の課題であった「不良債権・過剰債務処理」問題も最終段階に入っ

表-1 北海道銀行と北陸銀行の経営統合に関する時系列事項

年	月	日	事 項
2002(H 14)	05	24	「北海道を中心とした業務提携」発表
2003(H 15)	05	23	経営統合発表
	06	27	統合準備委員会の設置・第1回の開催日発表
	07	15	第1回統合準備委員会開催
	09	26	持株会社の名称と商号発表
			統合時期を「平成16年9月」とする工程表も同時発表
2004(H 16)	12	26	「ほくほくFGの経営体制について」発表
	04	26	株式交換比率決定(北陸1:道銀0.8)
	06	11	「経営統合の基本戦略と目標について」発表
	08	27	金融庁、ほくぎんFGと道銀の経営統合→ほくほくFGの設立認可
	09	01	ほくほくフィナンシャルグループ、発足
	11	26	「経営健全化計画」発表
			店舗統廃合発表(北陸銀の北見・網走を道銀北見・網走支店に統合、北陸銀清田支店を同行白石支店に業務移管。道銀大阪支店を廃止、北陸銀大阪支店に統合)
	12	「経営健全化計画の履行状況」報告書発表	
2005(H 17)	01	14	店舗の再配置・移転発表(旭川・札幌の4支店1出張所)

評論 2004年の北海道経済

たとはいえ、現実の金融環境が大きく好転したわけではないので、発表時に指摘された問題点・課題は相変わらず残存していると考えられる。

そこで、発表時に計画された統合計画のスケジュール・見通しとこの1年間の動きを追いつつ、今後の課題を指摘しておくこととする。

2003年5月の「経営統合に係る基本合意について」から、9月の「経営統合の時期および持株会社の商号について」、12月の「ほくほくフィナンシャルグループの経営体制について」に至る3つの公表文書において、北海道銀行・北陸銀行の両行は、統合方式(株式交換方式)、統合時期(2004年9月→9月1日で検討)、持株会社の名称(ほくほくフィナンシャルグループ)、統合後の基本方針等を発表してきた。そして、2004年に持ち越されたスケジュール上の具体的作業は、統合比率の確定、株主総会での承認、金融庁の認可であった。

統合比率については、両行の思惑、外部の評価等を含めて様々な数値が試算・報道されていたが(2003年7月4日『日本経済新聞』地方経済面、2003年7月7日『日経金融新聞』、2003年7月17日『日本経済新聞』地方経済面等)、4月26日、「北海道銀行の普通株式1株につき、ほくぎんFGの普通株式0.8株を割当交付すること」が決定された。この「ほくぎん1:道銀0.8」という統合比率は周囲の予想、金融関係者の評価からすると道銀に有利、実質対等統合と評価された(4月27日『北海道新聞』、図-1)。

この日同時に「経営理念・コーポレートマーク」も発表され、「地域共栄」「公正堅実」「進取創造」を経営理念とすることが発表された。

次いで、6月に「経営統合の基本戦略と目標について」が公表され、「経営統合の目的」「基本戦略」が改めて示され、「目指す姿」として具体的数値目標も提示されている。

こうした準備作業と、6月29日の両者株主総会での統合承認、8月27日の金融庁の認可を経

て、9月1日、北海道銀行とほくぎんFGの経営統合・「ほくほくFGの発足」が実現した。

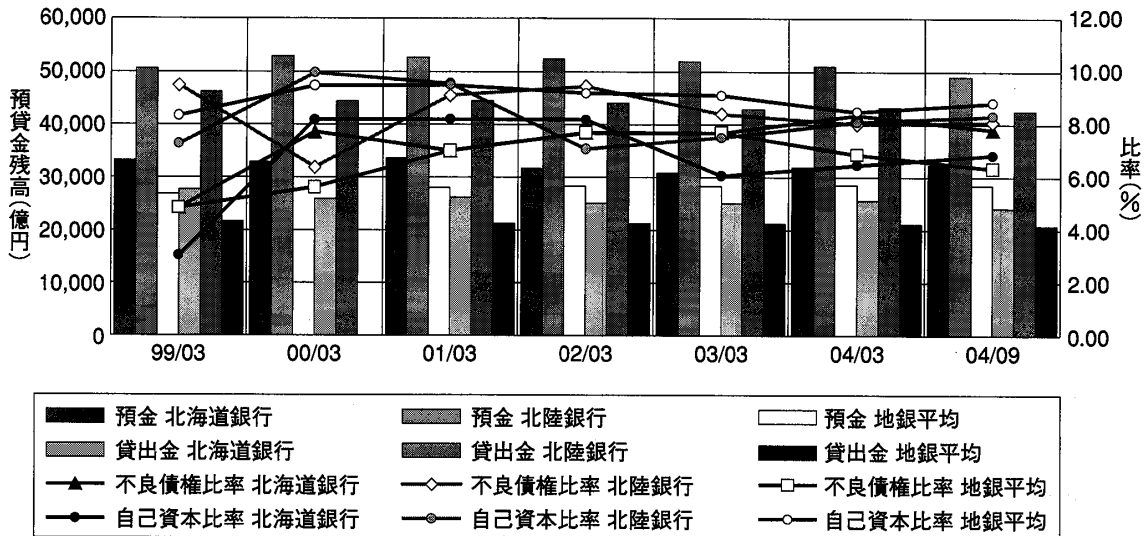
こうして、2002年5月の北海道銀行と北陸銀行の業務提携から2年4ヶ月、2003年5月の経営統合発表から1年4ヶ月で、共に北海道を営業基盤とする北海道銀行と北陸銀行は、図-2に示されるような組織と共通理念の下で、新たなスタートを切った。自己資本比率の低さ・不良債権比率の高さから「弱者連合」と言われ、「財務基盤がもろい経営再建中の地銀同士の統合効果に疑問の声」(2003年5月26日『日経金融新聞』)とも言われ、その効果が疑問視されていることも事実であるが、同時にまた「飛び地経営」「広域営業に期待」という側面も持っている。現実スタートして4ヶ月余(2005年1月時点)を経て、その効果のほどはどうか。

発足後1ヶ月の時点で『北海道新聞』は、「道内企業に“統合効果”と効果面を指摘している(10月1日朝刊)。「ほくほくFGの最大の売り物は、両行の取引先を相互に紹介して、販売先・提携先開拓を支援するビジネスマッチングサービス」であり、「取引先の相互紹介サービスで道内企業に新たな商機が生まれている」と、広域性と情報力のメリットが生かされつつあることを指摘している。また「ライバルの札幌北洋ホールディングス(HD)との融資競争も激化」していることで、道内金融の活性化を促すなど、「統合効果は着々と表れている」と効果面に力点を置いた評価がなされている。他方、『日本経済新聞』は発足後3ヶ月の時点で、「不透明な将来像・財務基盤になおリスク」とのタイトルで、店舗統廃合の困難さと効果、ビジネスマッチングに対する期待の過大さ、不良債権比率の高さ・自己資本比率の低さ等を材料に懸念面を指摘し(2004年11月30日・12月1日地方経済面)、課題を提示している。

これらは何れも事前に取り上げられた「功罪」の両面であり、それぞれの面から一定の評価を下したものと言えるが、共に短期的に即座に「効

評論 2004年の北海道経済

図-1 道銀・北陸銀と地銀平均の計数比較

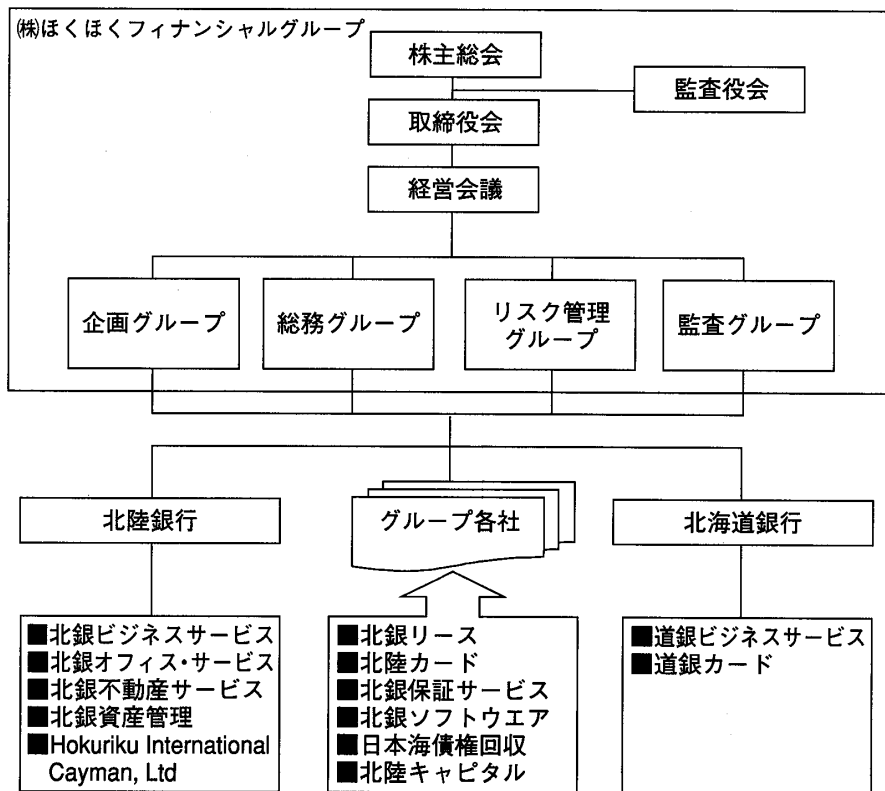


(備考) ①「不良債権比率」はリスク管理債権額を貸出金額で除した数値 (%)。

②自己資本比率(地銀平均)は「国内基準行」(50行)の平均。

(出所) 地方銀行協会 HP の「地方銀行のデータベース」より。

図-2 ほくほくフィナンシャルグループの組織図



(出所) 2004年9月1日発表の「株式会社ほくほくフィナンシャルグループの発足と新体制の概要について」より (<http://www.hokuhoku-fg.co.jp/>)。

評論 2004年の北海道経済

果」が現れるものでもないと思われる。具体的な措置は店舗統廃合も含めて未だ緒に就いたばかりであり、行動が数値に現れるには一定の時間が必要である。今年(2005年)4月にはペイオフ凍結全面解除も控えている。「北海道銀行と

北陸銀行の経営統合・ほくほくFGの発足」が北海道の経済・金融、そして我々の生活の安定に寄与することを願いつつ、中期的ないし長期的な視点で今後を見守るべきであろう。

(経済学部助教授)